

横浜新都市交通株式会社の現状について

1 シーサイドラインについて

(1) 概要

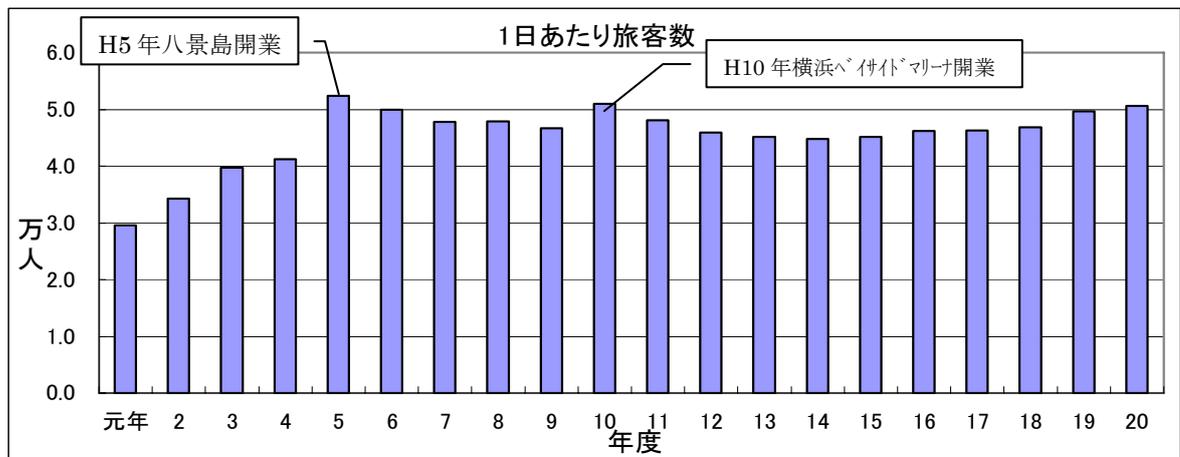
金沢地先埋立事業に必要な輸送力の確保を目的として建設された新交通システム

整備主体	① <u>インフラ部</u> (橋脚、桁、駅舎等) →国及び横浜市が道路の一部として整備 ② <u>インフラ外部</u> (車両、電気・通信施設、改札等) →横浜新都市交通(株)が整備
営業開始	平成元年 7 月 5 日
営業区間	新杉田駅～金沢八景駅(暫定) 14 駅/10.6 km
旅客数	平成 20 年度 約 5 万 1 千人/日
運行方式	平成 6 年 4 月から自動運転

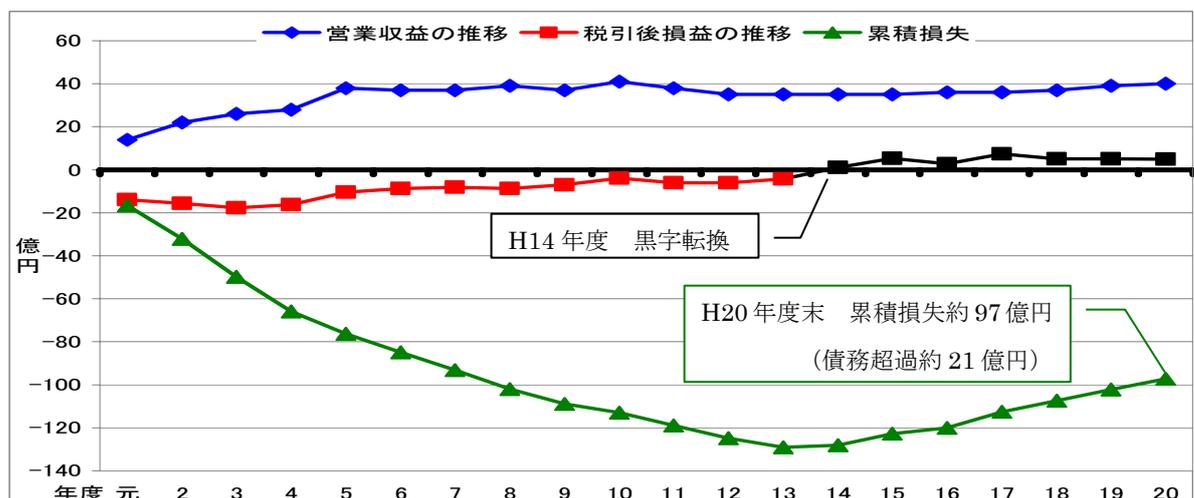
[シーサイドライン路線図]



(2) 旅客数の推移：平成 5 年度以降は 4.5 万人/日～5 万人/日で推移



(3) これまでの経営状況：平成 14 年度以降は黒字を継続、平成 20 年度末で債務超過約 21 億円



2 設備更新について

開業から 20 年が経過し、当初一斉導入した車両等の設備更新が必要な状況です。

(1) 必要性

部品が製造中止になっていることやメーカー保有期間の経過により修繕が困難になっています。

また、JR 福知山線事故を受けて、平成 28 年 6 月までに運転記録装置の設置が義務化（国土交通省令）されており、車両の更新が必要です。

(2) 内容

更 新 内 容	費用（予定）
車両（16 編成・80 両）	約 85 億円
自動運行、信号、通信設備等	約 19 億円
合 計	(※) 約 104 億円

※ 費用約 104 億円のうち約 57 億円（予定）は民間金融機関からの調達を予定